

YMCA News



2018年3月10日発行
公益財団法人
盛岡YMCA
〒020-0015
盛岡市本町通3-1-1
Tel 019-623-1575
Fax 019-623-1579
www.moriokaymca.org
発行人 / 兼務 有史
編集 / 本部事務局



「私にとって」

岩手看護短期大学3年 鬼柳琴(マックリーダー)

上手く表現することが出来ないけれど、胸の奥から、からだ中に凄く尊いものが、わーと湧いてくる、そんなたまらない感情になる瞬間がYMCAの活動に来ていたとあった。楽しいとか嬉しいとかそういう感情とも少し違う感情だ。

それは、子どもが発した一言だったり、グループで過ごしたテントの中のひと時だったり、歌を歌いながら下った山道だったり、ナイトプログラムのワンシーンだったり、ただその場の雰囲気だったり。その説明の仕様が無い感情が、その瞬間が、私は大好きだった。

私はリーダーとしては3年間YMCAで活動した。私は初め、短大の過密な授業や実習で多忙になることから、2年生でYの活動に一区切りつけなければならぬと自分の中で考えていた。ところが気付けば3年目も、サマーキャンプに燃え、月に1回の野外活動も11月まで行っていた。自分にとってYMCAが離れたくない場所になっていたのだ。

なぜこんなに離れたくなかったのか。それは冒頭にも述べたように活動自体が大好きだったこと。そしてもう一つは、今まで活動してきた仲間たちと一緒に活動し続けたかったということ。このことがとても大きい。

「マックが好きなようにやっていいよ。だけどやるからには責任を持ってね」と挑戦する機会をたくさん与えてくれた時に、自分では気付くことが出来ない、あるいは向き合っていなかった自分と向き合うきっかけをくれたスタッフ。

1年生の頃しつこい位自分に声をかけてくれ、私を引き出してくれたり、「一人でやってみなよ。大丈夫。」と背中を押してくれた先輩リーダー。そして、思い描くようにいなくて一緒に悩んだり悔しい思いをしたり、相手に自分の思いが伝わらなくて苦しかったり。だけど楽しい時も最高の時も一緒に作ってきたリーダーたち。

そんなYMCAのみんなが大好きだ。だから欲を言えばもう1年一緒に活動したかった。だって、想像しただけでわくわくしてくる。しかし私は卒業する。この3年間YMCAで感じたこと、学んだことをこれからも大切に生きていきたい。

今までマックと関わってくれたみなさんありがとうございました。



盛岡 YMCA の使命

私たち、盛岡 YMCA は、イエス・キリストによって示された生き方に学びつつ、豊かな自然と歴史的伝統に満ちた岩手の地で、こども、家族、地域とともに公正で平和な世界の実現を目指します。

1. こどもたちの個性を大切にし、それぞれの夢や希望、生きる力を育みます。
2. 家族の絆といのちの大切さを深め合います。
3. 共に生きるために、異なった文化、多様な価値観と出会う場を提供します。

2月アドベンチャー

ワカサギ釣りに行こう♪

みなさんこんにちは!今回2月アドベンチャーのメインを努めました、マックスです!今回のアドベンチャーは2月18日に子ども31人、リーダー6人で岩洞湖に行ってワカサギ釣りをしてきました。ほぼ全員が初めてのワカサギ釣りということで気合い充分でワクワクしていました。バスの中では手遊びのゲームをして楽しみ、いざ岩洞湖へ!一面雪で真っ白な湖を見て感動しました。栈橋を渡ってドーム船に着くと、2つのドーム船に別れて、ワカサギ釣りのスタートです。最初の難関はワカサギのエサのサシというイモムシを針につけることです。女の子はもちろん、男の子さえ嫌がっていました。最初はリーダーにつけてもらって準備完了です。竿を動かしたり止めたりしてワカサギを誘いますが、なかなか釣れません。しかしその最中でもリーダーや他の友達と沢山話をして楽しみました。そんな中ひとつのドーム船で「釣れた!!」という声が聞こえ盛り上がりしました。

そのあとも何匹か釣れて大盛り上がり。しかし、もう片方のドーム船では全く釣れませんでした。そのこともあり、イモムシも自分でつける!と男の子も女の子も友達と協力しながらチャレンジしていました。するとやっとワカサギが1匹釣れました!グループを越えてドーム船のみんなで大喜びしました。



お昼は竿を垂らしながらドーム船でお弁当を食べました。そこにYMCAに来ている子のおばあさんが経営しているばっちゃん亭からありがたいことにワカサギの天ぷらが届きました。命に感謝して美味しく食べることができました。午後は継続して釣りをするというグループと湖の上に行ってみようというグループに別れました。釣りをしたグループは成果がありませんでしたが、みんなで協力し、そして楽しく釣りをしました。湖の上で雪遊びをしたグループは巨大な雪の壁に穴を掘って入ったり、そりで坂や氷上を滑ったりして楽しみました。釣れたワカサギは合計で7匹と少なかったのですが、グループで協力してチャレンジ

し、命を頂いているということを実感できた活動となりました。また、初めての活動ということで反省点も多く出ましたが次の活動に活かせるものとなりました。



岩手大学教育学部2年
東彩由海(マックスリーダー)

ワカサギつり

赤松紗実(2月アドベンチャーメンバー 1年)



きょう、YMCAのアドベンチャーで、がんばろこにワカサギつりにいきました。

ワカサギについてわかったことは、プランクトンなどをたべていて、日本のきたや、みずうみのそこにしかすんでいないそうです。そしてこ年は、ワカサギがふりょうなので、つるのがむずかしいそうです。でも、1ぴきつれたのです。つれたばかりのとき、とてもげんきだったので、つれてかえってかいたいとおもいました。それで、「げんき」と名まえをつけました。ビニールのふくろに入れて、つれてかえりました。でも、だんだんよわって、おなかをうえにくるしそうでした。いえにかえって、ボウルに入れてげんきになるようにおいのりをしましたが、あまりうごかなくなってしまうわたしは、ないてしまいました。ほんとうは、「げんきくん」にげんきでいてほしかったけど、ワカサギのいのちをいただくのもだいじだな、げんきくん、ありがとうとおもっておかあさんに天ぷらにしてもらって、いもうととはんぶんずつたべました。すごくおいしかったです。でもかなしかったです。

祖母からひとこと



ワカサギ「げんき君」来宅後我が家は大騒ぎでした。命をいただく感謝について話したり、なぐさめたりで、やっとげんき君は天ぷらになることに決定。

急遽夕食メニュー変更。お母さんは、天ぷら材料を買いに再度スーパーマーケットに。(夕食下拵え出来ていた)

げんき君を粉に入れる際にも又涙、クールな妹に、入れてあげると言われ、パニックに。キッチンは大騒ぎ。結局妹が粉に入れた様でしたが、神妙な面持ちで上半身を妹が、下半身を紗実がいただきました。

スタッフの皆様、素晴らしい学びをありがとうございました。

ゆきフェスティバルキャンプin安比

みなさんまたまたこんにちは!マックスです!

2月24日と25日に行われた「ゆきフェスティバルキャンプ」について報告させていただきます!今回は子ども16人、リーダー6人で安比高原スキー場のゆきフェスティバルに行ってきました。行きのバスでは、グループで話し合っ
て二択の選択肢からゲームの方法などを決めて進んでいきました。ぶつかることもありましたが、どのグループも楽しく話し合い、緊張が解け、行きのバスからグループの仲を深めていました。話し合いで決めたゲームは歌いながら体を動かすものや、歌合戦、クイズをして大盛り上がりでした!スキーレッスンは4つのグループに分かれて行いました。この日は天候が悪く、雪が降っていてどのグループもあまり滑ることはできませんでしたが、1本の滑りを大切に楽しく滑ったり、雪遊びをしたりしました!ホテルに戻ってグループごとに極寒の露天風呂がある温泉に入
って疲れをとり、夕食はバイキングです!バイキングはカニの足が積まれていたり、わたあめ作りやチョコレートフォンデュができたりと、リーダーも興奮するメニューでみんな何度もおかわりをして食べていました。



夜は安比の冬花火!
...の予定でしたが悪天候のため延期とてしまいました...
がっかりしましたが、その分、ピンクシャツデーの話し合いの時間を多く設けることができました。

ピンクシャツデーとは、いじめについて考える日で、2月の最終水曜日に行われているものです。盛岡YMCAもその運動を行っており、今回のキャンプでもみんなで考えられるきっかけになればと思い、その機会を設けました。

今回話し合ってもらったのは「いじめはなぜおこるのか」「明日からできることは何か」ということです。どのグループも自分の意見をしっかりと伝え、友達の意見をしっかりと聞くことができていました。



翌日の朝のつどいでの発表会では全員が話し合ったことを発表し、それを真剣に聞いていました。相手の気持ちを考えること、いじめを見かけたら声をかける勇氣を持つことなど様々な意見が挙がりました。子どもたちがいじめをなくしたいと本気で思っていることがよく分かりました。また、相手や自分を大切にすることを考えるきっかけとなりました。その後は朝ごはんを食べ、スキーレッスンのスタートです!前日に滑り足りなかったのも、みんな気合い充分。各グループでコースを周り、スキーを楽しみました!色々なことがありましたが、スキーグループの仲も深まりお互いに応援したり、助け合ったりしてスキーレッスンを終えることができました。帰りのバスではさまざまなクイズでグループ関係なく遊ぶことができました。

今回のキャンプではホテルでの生活の仕方など、他の人達にYMCAの人達はすごいなと思ってもらえるようにしようということを伝え、さらに、ピンクシャツデーの話し合いや、生活グループ、スキーグループでの活動を通して子どもたちなりに相手の気持ちや相手を大切にすることを感じることがと思います。リーダーたちも、その真っ直ぐな姿を見て、自分を見つめ直すことができたとても良いキャンプになりました。花火を見ることができなかったのでも来年リベンジします!!

岩手大学教育学部2年
東彩由海(マックスリーダー)



2月宮古アドベンチャー「目指せ!風揚げ名人」



こんにちは!つよぼんです。2月の宮古アドベンチャーは陸中海岸青少年の家で凧作りとその凧揚げを行いました。こども17名、スタッフ・リーダー10名の27人で楽しく活動してきました。

バスの中ではクイズをしたり歌をうたったりして盛り上がりました。到着すると、施設の方に挨拶をし早速凧作りのスタートです。作り方の説明を聞きながら水色のビニールに思い思いの絵を描き、凧の足となる色とりどりのカラーテープを貼り付け凧紐を結んだらオリジナルの凧が出来上がりました。

絵の上手な子、面白い言葉を書く子など個性の出た素敵な凧になりました。

グループごとにお昼ご飯を食べ、みんなで「ごちそうさま。」をすると午後はいよいよ凧揚げです!前日の雪でグラウンドが使えなくなってしまったため、凧揚げができる場所が駐車場と限られてしま



いましたが風も吹いており天候は凧揚げ日和でした。それぞれの凧が高く空に揚り施設の屋上や、森まで飛んでしまう子もいましたがはじめてこんなに飛ばした!という声も聞こえてとても楽しかったです。

風が強くなり、凧どうしが絡まったり、壊れたりしまったりもしましたが、修理をするときも骨の形を変えるなど工夫して楽しく作業ができました。そのうち、色鬼もはじまり、色鬼をしている子も凧揚げをしている子もとても楽しそうでした。

お別れの時のまたね!がとてもうれしくまた宮古のみんなと活動がしたいと思いました。

今年度のアドベンチャーは今回が最後でしたが、来年度のアドベンチャーもとても楽しみです!



盛岡大学1年
千葉文彦(つよぼんリーダー)

『とりあえず祈っぺ!!』

20代の頃、大分の別府に旅したことがある。市内の至る所にある共同浴場をはしごした。缶ビールもいい感じで効いてきた土曜の午後の黄昏時、先輩と二人でこともあろうかカトリック教会の玄関の前でひっくり返っていた。

会堂を覗くと、ベールを被った信者の方々が熱心にお祈りをしていた。ふと、気づくと小学校3、4年生くらいの男の子がトントンと教会の前の石段を登ってきた。彼は寝そべっている僕たちの横で、会堂の方に向かってしばらく黙祷し、十字を切ってまたなにごとにもなかったかのように石段を降りて帰っていった。

「彼は、何を祈りに来たのだろうか？」明日、野球の試合があって緊張してどうしようもない様子をお母さんが心配して「しょうがないわねー。お祈りでもいってらっしゃい!!」と言われたのだろうか？それとも病気のおじいちゃんがよくなるようにと自発的に祈りにきたのだろうか、いろんなことが酔った頭に浮かんできた。いずれにしても、キラキラと光る西日の中でひざまづいて祈っていた少年の姿は、とても美しい光景として僕の記憶に焼き付いている。

盛岡YMCAのスタッフであるゴリナリーダーは、中学、高校と仙台のミッションスクールに通っていた。ミッションスクールでは、礼拝や聖書の時間がたくさんある。その度に、別に信じているわけでもないが、先生に合わせてお祈りをし「アーメン」と唱えていたそうだ。

そして、定期テストで全然準備をしていない時や、部活動の試合の前、緊張感でどうしようもない時は友達どうし数人で集まって「まじ、やべー。どうしよう。」「とりあえず祈っぺ」と教室の中でお祈りしながら心を落ち着かせていたと言う。もちろん、彼女たちは、クリスチャンでもなければキリスト教を信じているわけでもない。

人間と動物との違いは何か？よくある問いだ。「火や道具を使う」「言葉を操る。」様々な回答があると思うが、僕は「祈れる」ことだと思っている。こどもたちが成長して行く中で、いじめ、失恋、不合格などさまざまな問題に出くわすことも多々あることだろう。自分の苦しみや悲しみを誰も理解してくれないと思った時、もはやこれまでと思った時、ふと目を閉じ見えないなにかに祈るという行為は、太古から例えば現代の歯を磨くという行為以上に自然で当たり前の習慣だったに違いない。

「なぜなら、わたしたちはどう祈ったらよいかわからないが、御霊みずから、言葉にあらわせない切なるうめきをもって、わたしたちのためにとりなして下さるからである。」

ローマ人への手紙8-26

盛岡YMCA 総主事 濱塚有史

ネパールでしろくまも考えた④

ネパールは、人よりも神々の方が多いと言われている国である。ヒンドゥ教や仏教など異なる宗教が混在しながらも調和している。ネパールの人々の多くはヒンドゥ教を信仰し、その割合は8割に及ぶ。その中には、ヒンドゥ教と仏教が混同した「ネワール仏教」というものも独自の文化を持ち、信仰されている。また、人々が多く集まる街中（主に首都カトマンズ）には至る所に神様がいます。道端、建物の壁、ちょっとした広場のようなどころ…。あちこちに様々な神様が祀られていて、宗教と生活の身近さを強く感じた。

そこら中にそんなものがあると信仰の無い私でも神々に守られているような気になった。さらには、晴れた空の彼方に雲のように白く浮かぶヒマラヤ山脈の山頂が見え、とても神秘的な景色を味わった。

YMCAなのでキリスト教に関して言えば、十数年前はほとんどいなかったキリスト教信者がだいぶ増えたようである。教会の数も急増し移動中に各所で教会を見かけた。

ネパール人のクリスチャンにも出会い、日々の生活で疲れ果てた心と身体がキリスト教での祈りによって癒され救われた話を聞いた。その話をするネパール人からは心の底からキリストに感謝していることが伝わってきた。

とても生き生きとしていた。信じる神様は違えども、神様に側で守られていると心から信じて生きている人たちはとても穏やかに笑っているように思えた。

盛岡YMCA 家村 知佳
(しろくまリーダー)



表紙の写真から



Eちゃん。初めて会ったのは、3年前の宮古サッカー教室。ぴっかぴっかの1年生だった。転んだり、ボールを相手に奪われたりする度に、この世の悲しみを全部背負ったかのように号泣する。しかし、彼女のすごいところは、すくと立ち上がり、号泣しながらもボールを追いかけることだ。何人のリーダーたちがその姿に逆に励まされたことだろう。3年間アドベンチャー、キャンプ等数多くのプログラムに参加してくれた。この4月、宮城県の小学校に転校するという。写真は、2月に行われた風揚げのプログラム。「いい感じで撮れてるよ」と言って見せたら、「で・へへへ」と嬉しそうに笑っていた。